

1. 研究目的

高等専門学校の英語教育において、学習をするために、学習者が参考にできるテキストや Web サイトは多数存在するが、教員が授業で解説に用いるための指導用テキストや Web サイトはほとんど存在しない。本研究では、教員が解説用に用いる授業用教材に ICT コンテンツを取り込んで開発する。また、実際に授業を行い、その有用性を検証する。

2. 研究対象とする授業および学生

本研究で作成した教材は、サレジオ工業高等専門学校第 4 学年の授業で実験を行う。対象授業は、TOEIC の受験準備を行う「英語演習」という授業を対象とし、学生は、E クラス(TOEIC-IP テスト平均 195 点程度)の 4 学科混成の 26 名である。

3. 作成した教材と実証実験について

今回教材を作成するにあたって、ICT を用いることにより、紙媒体教材と違って文字という視覚情報だけでなく、聴覚情報も同時に取り入れることができる。

また、静止画だけでなく、動画コンテンツにすることも可能である。そこで、ICT を用いた教材には、動画コンテンツを挿入することにした。動画コンテンツをパラパラ漫画のようにし、TOEIC の問題文の会話などをイメージからの解説を補助するようにした。パラパラ漫画のようにした理由は「ツァイガルニック効果」を狙うためである。以下(図 1. 動画コンテンツの流れ)は、動画コンテンツを作る際に使用した写真と流れである。



図 1. 動画コンテンツの流れ

写真は「She is opening a box.」を表しており、箱を開けていることが写真の流れより分かる。このようにして解説用動画コンテンツを作成した。

さらに、ICT 教材自体は、余計な情報を入れないために、なるべくシンプルに仕上げた。以下(図 2. 作成した教材の一例)に示す。



図 2. 作成した教材の一例

実験は、初めに問題を受験させ、その場で解説をする。約 1 か月半の間隔をあけて、同じ問題に受験させる。実験するテストを 2 種類用意し、それぞれの解説を教材なし(Test1)とあり(Test2)で行い、結果の差を比較する。

4. 結果

受験の結果を以下(表 1. 受験結果)に示す。

表 1. 受験結果

平均値	受験 1 回目	受験 2 回目
Test1	43%	43%
Test2	51%	50%

解説に ICT 教材を使用した場合としなかった場合では、結果に差がほとんど生じなかった。

5. 考察

今回の実験の結果より、ICT を用いた解説用教材の有用性はないように思える。しかし、Test2 の受験前後の学生の状態やその日の状況、学生に実施したアンケートの結果より学生がコンテンツの印象を記憶することはできたことを考慮すると、有用性はあるのではないかと考えられる。

6. 今後の発展

今後は、解説後に行ったアンケート結果をもとに、単語自体を記憶することができなかったため、教材に改善を加える必要がある。また、教材だけでなく、教材を使用する環境整備や、指導教員の技術的サポートにも課題が残る。さらに、複数年実証することで、今回の実験だけでは発見できなかった傾向や、結果が生まれると予測できる。

文 献

- [1] 「TOEIC テスト 新公式問題集 Vol.3」一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会